

農業技術センター普及指導部作物関係情報 (その3)

タイトル：水稻の生育状況（7月15日現在）について

発信日：平成23年 7月19日

内 容

- ・気温は6月5半旬以降、平年より高めで日照は平年並～多く推移した。水稻の生育は、日射量が十分確保されているため、平年並～2日程度早く推移している。
- ・草丈は平年並～やや高く、茎数は平年並～やや多い、葉色は平年並みの傾向である。
- ・高温・強風等によって、葉の先端が枯れているものも見られるが、生育には影響ない程度である。
- ・中干しは、7月10日頃から順次始まっており、現時点では概ね順調で効果的になっている。

- ・7月15日時点で、5月中下旬植えの「キヌヒカリ」では幼穂形成期で、平年よりやや早くなっているものと思われる。

- ・7月15日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並～やや高めで、降水量・日照時間は平年並～やや多い予測となっているため、生育は平年並みの状態で推移していくものと予測される。（参考：気象庁横浜气象台1ヶ月予報）
- ・今後、このまま気温が高く推移すると、出穂期は平年よりも早まると予想される。
- ・追肥（穂肥）は高温傾向が予想されるので、積極的に施用した方がよい。

今後の作業

今後の水稻の技術指導において、次の点に留意する。

- ①7月15日現在の生育状況から、平年並～2日程度早くなっている状況である。
- ②穂肥（追肥）は、施用時期を平年並みとし、施肥量は気温が並み～やや高めという気象予報をふまえ、平年並み～やや多めとする。玄米の充実促進と外観品質向上のために穂肥は行う。
 - ◆平年では、「キヌヒカリ」は出穂期の20～15日前頃、窒素成分2kg程度を施用する。
 - ◆平年では、「さとじまん」は出穂期の15～10日前頃、窒素成分2～3kgを施用する。

(参考) 追肥は、天候、品種や水田により施用量は異なる。

- ・好天・高温の場合は多く、日照少なく・低温傾向の場合は少なくする。
- ・乾田や堆肥施用のない場合は多く、湿田や堆肥施用の場合は少なくする。
- ・堆肥等有機物を施用した場合は、原則として遅めの穂肥とする。

③最も水管理が大切な時期です。

穂ばらみ期～出穂期～乳熟期（出穂前15日～出穂後10日頃まで）は、最も水を必要とする時期ですので、水を切らさないよう注意する。

④イネツトムシの発生に注意する。

イネツトムシの孵化最盛期予測が7月23日のため、早急に粒剤による防除を行うと良い。

⑤紋枯病の発生に注意する。

梅雨明け後、高温傾向が続く場合、紋枯病が発生しやすくなる。「キヌヒカリ」は紋枯病に弱く、多発すると倒伏し易くなるので、必要に応じて薬剤により防除する。

*害虫の発生が引き続き遅れている傾向にあるが、害虫の発生情報には十分注意する。病虫害防除部のテレホンサービス（0463 - 58 - 6612）やホームページを活用する。

(参考)

*農業技術センター（平塚市）での平年値（概ねの目安）

作期	品種名	出穂期	穂肥時期	湛水状態期間（水を切ってはいけない期間）
5月下旬植	キヌヒカリ	8月 6日	7月17日	7月22日～8月16日
	さとじまん	8月15日	7月31日	7月31日～8月25日
6月上旬植	キヌヒカリ	8月13日	7月23日	7月29日～8月23日
	さとじまん	8月18日	8月 3日	8月 3日～8月28日
6月中旬植	キヌヒカリ	8月18日	7月29日	8月 3日～8月28日
	さとじまん	8月24日	8月 9日	8月 8日～9月 3日

連絡先

農業技術センター普及指導部 作物加工課

平塚市上吉沢1617

電話番号：0463 - 58 - 0333（内）381～384

FAX番号：0463 - 58 - 4254

E-メール：noken.fukyu@pref.kanagawa.jp